

音楽科学習指導案

期 日 平成17年6月13日(月) 第5校時

学 級 北上市立黒沢尻東小学校1年1組

男子 16名、女子 17名、計 33名

指導者 福士 幸雄

- 1 題材名** 「いろいろな音を聴いてリズム遊びをしよう」
2 指導内容 学習指導要領第1学年及び第2学年の目標(2)及び内容(4)ア、イから設定する。
 a いろいろな音素材の知覚と感受 b リズム表現

3 題材の目標

- (1) いろいろな音に関心をもち、リズム遊びやリズムをつくって表現することに意欲的に取り組む。
- (2) いろいろな音の音色や響きのよさやおもしろさ、楽しさなどを感じ取って、リズムの工夫をする。
- (3) いろいろな音を生かして、リズム遊びやリズムをつくって表現をする。

- 4 教材** 歌えバンバン、おむすびころりん
 いろいろな音素材や打楽器

5 題材について

学習指導要領の第1学年及び第2学年の指導内容(4)アは「リズム遊びやふし遊びなどを楽しみ、簡単なリズムをつくって表現すること」を、(4)イは「即興的に音を探して表現し、音遊びを楽しむこと」を指導するように示されている。また、指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱いでは「各学年のA表現の(4)に示す事項については、児童が個性的な発想を生かした表現を工夫し、様々な響きを直接経験するようにすること」とあり、音楽の素材となる様々な音に興味・関心をもち、児童一人一人が表現の活動の中で、イメージを膨らませ、個々の思いや発想を基に主体的、創造的に表現することを大切にして指導するように示されている。そこで、本題材は、音楽の素材となる様々な音素材を聴き取ったり感じ取ったりしながら、それらを生かして、自己のイメージとかかわらせて、リズム表現する能力を育成するために設定した。

本題材では、主に次の内容を指導する。

- ① 様々な音素材に気付き、それらの音色や響きを聴き取り、その音のよさやおもしろさ、楽しさなどを感じ取ること
 - ② 様々な音素材の音色及び響きなどの特性を生かし、イメージをもってリズム表現をすること
- 児童は、日頃の音楽の授業では、歌唱・器楽・創作・鑑賞の分野をバランスよく学習している。児童にとって創作分野は、はじめての学習である。

指導に当たっては、これまでの生活経験や音楽の授業で学習したことを生かし、興味・関心をもって主体的、創造的に活動を進められるように配慮したい。そこで既習曲をもとに、音楽を形作る基盤であるリズムに着目した活動を取り入れる。そして、様々な音素材の音色や響きを知覚し、そのよさやおもしろさ、楽しさなどを感じ取る活動をとおして、自分なりのイメージをもって、リズム表現ができるように指導したい。また、楽曲の雰囲気を感じ取り、その雰囲気にあった音素材を選び、その雰囲気にあったリズムとその工夫へと発展させていきたい。本題材の学習が、今後のつくって表現する題材においても、自分なりの思いや願いを生かし、主体的、創造的につくって表現ができるように配慮して指導したい。

6 題材の評価規準

【A 表現・創作】

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
題材評価規準	・いろいろな音の音色や響きに関心をもって、リズム遊びやリズムをつくって表現することに意欲的に取り組んでいる。	・いろいろな音の音色や響きのよさやおもしろさ、楽しさなどを感じ取って、リズムの工夫をしている。	・いろいろな音を生かして、リズム遊びやリズムをつくって表現をしている。
学習具活体動のにお評価規準	①いろいろな音の音色や響きに関心をもって意欲的に聴いている。 ②いろいろな音を生かし、リズム遊びや簡単なリズムづくりを楽しんでいる。	①いろいろな音の音色や響きを感じ取っている。 ②表現したいイメージをもって、簡単なリズムの工夫をしている。	①いろいろな音を生かして、リズム遊びや簡単なリズムをつくって表現している。

7 指導と評価の計画

本題材を扱うに当たっての留意点は、「リズム遊び」の名のもとに、一時的・刹那的な嗜好による音楽活動に陥らないように配慮すること、「感性・創造性」の名のもとに、自己満足的な音楽活動に陥らないよう指導することである。そのために、以下の①～②の段階を意識しながら指導に当たる。

- ① 音に対するさまざま感受(知覚すること・感じ取ること)を大切にして指導すること
 お互いの音の聴き取り、感じ取り、それぞれの音に対するイメージなどを認め合いながら、指導する。
- ② リズム遊びの活動の方向性を意識して指導すること
 ①の学習をとおしてイメージしたことやリズムのパターンや反復を生かして、リズム遊びや簡単なリズムをつくって表現できるように指導する。

★第1段階

いろいろな音を聴き、その音色や響きを知覚したこと、感じ取ったことをもとに、それらの音素材を生かしてリズム表現する。

授業では、次の2つの観点を示して自由に発表させる。

- ・いろいろな音を聴き、音の音色や響きについて自由に発表する。
- ・それぞれの音が、例えば、キーンという音、金属みたいな音、像の鳴き声のような音、明るさ（暗さ）を感じる音など、感じたことを発表する。

指導内容 音の感受 リズム表現	評価方法 《発言や行動等の観察》 《演奏》	題材の評価規準との関連 観点1-①、観点2-① 観点3-①
--	--	--

★第2段階

いろいろな音を選び、それらの音色や響きを生かして、イメージをもちながら、リズムの工夫をしたり、リズム表現をしたりする。

- ・いろいろな音を選択し、表現したいイメージをもちながら、リズムの工夫をする。
- ・リズムのパターンと反復を用いてリズム表現する。

指導内容 リズムの工夫 リズム表現	評価方法 《発表や行動観察》 《演奏》	題材の評価規準との関連 観点2-② 観点1-②、観点3-①
--	--	--

8 指導と評価の展開（本時の展開）

時間	ねらい○・学習活動	具体的評価規準との関連	指導上の留意点△、評価方法<>等
1	<p>○ いろいろな音素材の音色や響きに関心を持ち、それらを感じ、リズム遊びをする。</p> <p>1 既習曲（歌えバンバン）を歌いながら、リズム遊びをする。</p>		<p>△これまで授業で学習した曲を、みんなで楽しく手拍子や身体表現をしながら歌い、活動の意欲付けや雰囲気づくりに努める。</p>
<p>いろいろな音を聴いて、その音を生かしてリズム遊びをしよう</p>			
	<p>2 ひみつの音を聴く。 箱の中に入っている様々な音素材を聴き、どのような音であるか、どのような感じの音か、自由に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の音？ ・どんな感じ？（～みたい？） 	<p>観点1-①</p>	<p>△どんな感じがするかということが、言葉でなかなか表現できないときは、擬音語や身体表現、情景や動物、身の回りにある物にたとえて、『○○みたい』のように答えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚的な聴き取り、直感的な聴き取りを大切にする <p><観察> (音を聴き取っている様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色や響きを聴き取ろうとする関心・意欲・態度の状況を把握する。(発言内容や挙手など) ・音素材の音色や響きについて、知覚したことや感じ取ったことの状況を把握する。 <p>△お互いの好きな音を認め合う気持ちを大切に指導する。</p> <p><演奏> (リズム打ちの様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲に合わせてリズム打ちをしている状況を把握する。
	<p>3 様々な音素材を選んで、自分なりにリズム打ちをする。</p>	<p>観点2-①</p>	
		<p>観点3-①</p>	

9 観点別評価の進め方

<p>学習活動における具体的評価規準</p>	<p>おおむね満足できる状況であると判断する具体的な状況例(B) Bのうち十分満足できる状況であると判断する具体的な状況例(A)</p>	
<p>【観点1 音楽への関心・意欲・態度】 ①いろいろな音の音色や響きに関心をもって、意欲的に聴いている。 ②いろいろな音を生かし、リズム遊びや簡単なリズムづくりを楽しんでいる。</p>	<p><観察> (音色や響きを聴き取ろうとしている様子) 様々な音素材の音色や響きについて発表しようとしている。他の発表から自分なりに感じたことを発表したり、自分の考えを意思表示したりしている。 <観察> (リズム遊びの様子) 音素材の特性を生かし、自由な発想でリズム遊びに取り組んでいる。</p>	<p><観察> (音色や響きを聴き取ろうとしている様子) 様々な音素材の音色や響きについて、音色や響きとそのイメージを伝えようと意欲的に発表しようとしている。他の発表から自分の感じたことを意欲的に発表したり、意欲的に自分の考えを意思表示したりしている。 <観察> (リズム遊びの様子) 音素材の特性を生かし、イメージをもって、リズム遊びに積極的に取り組んでいる。</p>
<p>【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手だての例】 ・日頃、音楽の授業で学習している「音楽」だけではなく、様々な音素材が学習対象であり、それらの一つ一つの音素材に目を向けさせる。 ・音色について表現できない児童に対して、擬音語などの簡便法や何かにたとえさせて発表させる。 ・どのように表現したらよいか、周囲の生徒と話し合わせる。</p>		
<p>【観点2 音楽的な感受や表現の工夫】 ①いろいろな音の音色や響きを感じ取っている。 ②表現したいイメージをもって、簡単なリズムの工夫をしている。</p>	<p><観察> (発言内容や挙手) ・音素材を聴き、どんな音か(何の音か)発表したり、挙手している。 <学習カード> (記入の状況) ・音素材の音色や響きから、イメージをもち、リズムや音の出し方のいずれかの工夫を記入している。</p>	<p><観察> (発言内容や挙手) ・音素材を聴き、どんな音か(何の音か)、どんな感じがしたか、発表したり、挙手している。 <学習カード> (記入の状況) ・音素材の音色や響きから、イメージをもち、リズムや音の出し方などの工夫する内容を具体的に記入している。</p>
<p>【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手だての例】 ・音色や響きについて、うまく言葉で表現できない児童に対して、擬音語、情景や動物の鳴き声、物などにたとえさせ、音へのイメージをもてるようにする。 ・イメージをどのように表現したらよいか、周囲の児童と話し合わせる。</p>		
<p>【観点3 表現の技能】 ①いろいろな音を生かして、リズム遊びや簡単なリズムをつくって表現している。</p>	<p><演奏> (リズム表現の状況) ・音素材の特性を生かし、自由な発想による演奏をしている。</p>	<p><演奏> (リズム表現の状況) ・音素材の特性を生かし、イメージをもって、リズムのパターンや反復を生かした演奏をしている。</p>
<p>【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手だての例】 ・音素材の音色や響きから、直感的・感覚的に自分なりのイメージを擬音語などでとらえさせ、表現させる。 ・簡単なリズムを示し、それを基にしてリズム表現に結び付けさせる。</p>		

8 本時以降の展開例

第2時「さまざまな音素材を使って、物語に合った表現の工夫をしよう」		
目標 身の回りにある様々な音素材を効果音として挿入して、物語にあった表現の工夫をしよう		
段階	時間	指導内容（活動内容） 指導する上での留意点など
導入	10分	1 この音は何だろう？（前回の振り返り） ・箱や袋、缶を振って、音を聴く ・前時の音を聴き合う ・どんな音、どんな感じがする？
展開	30分	2 「おむすびころりん」に音を付けて表現してみよう ・どんな場面でどんな音が必要かな？ ・どのように音を出せばいいかな？ 3 これまでの身の回りにある音や音楽を振り返り、自分たちが選んだ場面に合った音を選び、音を出す工夫をする
	振り返り	5分

第3時「さまざまな音素材を使って物語を表現しよう Part 1」		
目標 物語に、身の回りにある様々な音素材を効果音として挿入して表現の工夫をする		
段階	時間	指導内容（活動内容） 指導する上での留意点など
導入	10分	1 場面に合った音素材を選び、その音に対するイメージをもって、音を出す工夫をする（前時の続き）
展開	30分	2 「おむすびころりん」の各場面のイメージをもって、どのような音を効果音として用いればよいか考え、またその場面にあった音の出し方を工夫する（グループごとに場面を選び、その場面に合った効果音を考え、その場面に合った音を選び、その音の出し方を工夫する） 3 お互いのアイデアを生かし、グループで使う音を生かして、物語に合わせて音を出す練習をする
	振り返り	5分

第4時「さまざまな音素材を使って物語を表現しよう Part 2」		
目標 身の回りにある様々な音素材を生かして、イメージをもって表現の工夫をし、音楽に合わせて演奏する		
段階	時間	指導内容（活動内容） 指導する上での留意点など
導入	10分	1 前時の確認 ・各グループで自分たちが選んだ場面の効果音を練習をする ・工夫したところを確認して練習を行う
展開	30分	2 お互いのグループの作品を紹介する ・イメージしたこと、工夫した点はどこなのか、演奏で紹介するとともに、言葉で発表する 3 お互いのグループの演奏を聴き合い、そのよさを発表し合う
	振り返り	5分